

北里記念医学図書館の耐震補強工事

たち たづこ
館 田鶴子

(信濃町メディアセンター事務長)

1937年竣工、和田順顕設計によるルネッサンス様式の北里記念医学図書館（信濃町メディアセンター及び北里講堂）に、文部科学省の耐震補助による耐震補強工事が施工された（2015年2月16日～3月31日）。建築家の間でも注目される貴重な建造物の外観や内装をなるべく損ねないようとの配慮から、建物側面・背面の窓を解体し、補強材を格納し、壁にして強度を増す方法が取られた。



1階閲覧室コーナーの窓も壁となった。

(上) 工事前, (下) 工事終了後



建物側面から背面にかけて
数カ所に足場が組まれ工事は進んだ。

メディアセンター入館ゲートを押すとすぐに見えるのが新着展示棚と教科書コーナーである。ここは建物背面の工事区域に当たったため、採光のあった書架スペースは壁となったが、新着展示書架は周囲の新タイプの書架にあわせて新調した。きれいになった書架、新着ディスプレイに目が向くためか、利用者は窓から壁への変化に気づいている様子がない。また、本工事を機に、閲覧室と書庫棟の間の光庭を潰して造られていた小部屋（1階は休憩室、2階は



入館ゲートから見た新着展示書架。
書架の向こうの窓が壁となった。

ロッカー室)を解体し、北里記念医学図書館竣工時の原形に戻すこととした。この小部屋ができる前は閲覧室や書庫にはところどころに小窓のあるお洒落な構造であったことがわかる。もともとあった窓は耐震工事で一旦、姿を現したが、鉄骨が縦横に入り、



スタッフルームと呼ばれて親しまれてきた小部屋の工事現場。手前に見える階段を上ったところがロッカー室。(下) 導入管から生コンを流し込んで壁が完成。

生コンが注入されて頑丈な壁へ変身した。

小部屋内の階段や内装は解体されて最終的に大きな空間となったが、最上部の天井だけは残されたため光は戻らなかった。ロッカー撤去後は管財課の協力を得て、地下スペースに職員用ロッカーを新設した。また、地下会議室は模様替えや什器移動などを行い、給湯室兼用とした。



3号館北棟からみた書庫棟側面。
中央列を残して左右の窓が壁となった。

歴史ある建造物ということから、本工事は事前調査段階で数回にわたる計測が実施されるなど、慎重に準備された。窓のある壁を壊す作業が始まるとまず悩まされたのが音、振動、塵埃、臭気であった。塵埃対策には殺菌機能付き空気清浄器を、一番被害の大きかった書庫1階に2機、設置していただいた。これは病院6号棟解体の際に院内で使用していた本格的な空気清浄器でありかなり効果的であった。また、2階の北里講堂は中止できない大切な行事を行う会場としての使用があり、工事日程への影響が出た。施工者、メディアセンター共に、予定どおりに工事が進むかを心配する日々が続いた。その上、什器や資料を一時避難させるための仮置き場所に苦労したこと、予期せぬ雨漏りに遭遇したことなど、決して平坦ではない長い行程であった。メディアセンターとしても工事に最大限協力し、桜吹雪の季節に予定どおり耐震補強工事の完成を見た時には、感慨深いものがあった。施行会社の安藤ハザマの皆さん、及び耐震補強工事に関わった管財課はじめ職員すべての人々へこの場を借りて感謝申し上げたい。